

## 地元の人を知って もらうこと

「登別沖でもタコが取れるんですね」、「ハタハタってなんですか」。

平成27年、市内のイベント会場で海産物を買いに来た市民の言葉にシヨックを受けた橋本さん。

いぶり中央漁業協同組合登別青年部の部長として、登別漁港まつりなどで海産物を提供していましたが、市民でも登別沖でどのような海産物が水揚げされるのかわからない人がいることに驚いたと同時に、悔しい気持ちになったといいます。地元の人に海産物をより広く知ってもらうためにできることはなにかと模索していたところ、JR登別駅前の敷地を使用できることが分かり、直接販売する『朝市』を企画。



▲ JR登別駅前で賑わいをみせる『朝市』  
(平成29年4月)

さまざまな手続きは、いぶり中央漁業協同組合にも協力してもらい準備をしたものの「お客さんに来てもらえるか、やはり不安はありました」と開催前を思い出す橋本さん。当日は、品物がなくなり購入できなかった方がいるほどの盛況で、自身で水揚げした海産物の魅力を改めて感じたといいます。

## 漁業が活性化するためにも おいしさを伝えていきたい

『朝市』などを通じて地元の人海産物を提供していますが、漁師の人数は減少傾向にあり、登別青年部も橋本さんが加入した際には30人ほどの部員が現在15人になっっているといいます。

「海産物のおいしさが知られることで付加価値がつき、漁業が活性化する。これからも地元の人海産物のおいしさを直接伝えていきたい」と話す橋本さん。

登別青年部として6月25日(日)にはJR登別駅前では今年最後となる『朝市』を開催するほか、今年5月から11月まで登別漁港などで開催予定の『朝市・夕市』でも、いぶり中央漁業協同組合の一員として、地元の人海産物の魅力を伝えていきます。



KIRARI

## 橋本貴雅さん (登別本町)

平成29年4月29日(土)9時、JR登別駅前には行列ができていました。地元の人新鮮な海産物を心待ちにしている方々です。

いぶり中央漁業協同組合の登別青年部が、JR登別駅前で『朝市』を初めて開催したのは、平成28年6月。2年目となった今年も、地元の人だけではなく、遠方からも登別沖で水揚げしたナンバンエビなどを求め、多くの人が訪れています。

地元の人海産物を広く知ってもらいたい、そして食べてほしいとの思いから開催に至ったという『朝市』。

今回は、朝市を主催している登別青年部の橋本部長に、朝市に対する思いを伺いました。

## 地元で水揚げされる海産物の魅力をより多くの人に知ってほしい



昭和58年、登別市富浦町生まれ。34歳。

高校を卒業し、1年間社会経験を積んだ後、祖母からの後押しもあり、祖父、父と続く漁師の道へ。その後、いぶり中央漁業協同組合登別青年部に加入し、平成25年、部長に就任。登別青年部として、毎年、登別漁港まつりに出店し、海産物を直売するほか、植樹事業に加わるなどの活動を行う。